

9月の窓

ここ何年か、暑い夏が続いたような気がします。調べてみたら、4年前の8月の山形市の最高気温が30℃未満だったのは1日だけで、残りの30日は毎日が「真夏日」でした。今年は、8月下旬から30度未満の日が多く、朝夕は秋の涼しさも感じるようになりました。これから秋が深まると、秋の夜長にいろいろな虫が鳴く季節を迎えることになります。

ある本を見ていたら、古くは蟋蟀（こおろぎ）を蝻蜥（きりぎりす）と呼び、蝻蜥は機織（はたおり）と呼んだそうです。鳴き声が、機を織る音に似ていたからでしょうか。奥の細道にも、きりぎりす（今のこおろぎ）を詠んだ句があります。

むざんやな 甲（かぶと）の下の きりぎりす……芭蕉

芭蕉が金沢から加賀小松に入り、多太神社で詠んだ俳句です。多太神社には、平家の武将斎藤実盛の遺品である甲などが納められていました。実盛は木曾義仲軍に敗れましたが、義仲が幼少時実盛に養育されていたことから、義仲が祈願状に遺品を添えて、神社に奉納していたのでした。その実盛の甲の下から、こおろぎの声が聞こえてきたのを詠んだもので、実盛の壮絶な最期に芭蕉が哀悼の句を捧げたものです。

蕉門十哲の一人許六にも、きりぎりす（今のこおろぎ）を詠んだ句があります。

きりぎりす なくや夜寒の 芋俵……許六

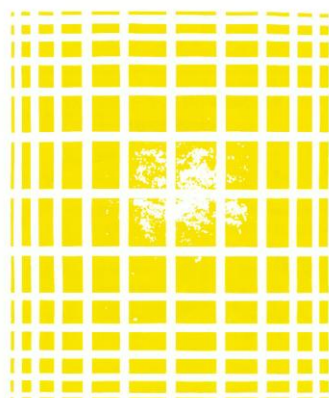
プライベートな話で恐縮ですが、8月上旬鶴岡まで行ってきました。私が初めて勤務した高校の元同僚仲間が、久しぶりに集まることになったのです。私の初任の学校は、鶴岡西高等学校とって、鶴岡市中心部から湯の浜に向かう途中の大山地区にありました。平成10年に鶴岡西高校と鶴岡家政高校が統合して鶴岡中央高校となり、校舎も鶴岡駅近くに新築されました。

せっかくなので、鶴岡西高校の跡地にも寄ってきましたが、当時の建物は一部を除いてほとんどなくなっていました。最初の写真が今も残っている建物です。右側の2階建ての建物は、商業科の実習室やコンピュータ室などのあった建物で、左の建物は、剣道場や柔道場などのあった武道館だったと思います。右の写真は、グラウンド跡です。このグラウンドは、正式には隣接する大山中学校のグラウンドでしたが、半分を高校が借りて使わせてもらっていました。大山中学校も、平成9年に近隣の加茂中学校及び西郷中学校と統合して、鶴岡市立第五中学校となり、ここから少し離れたところに新校舎ができました。写真の中央に白い壁の建物が見えます

が、このあたりに大山中学校の校舎がありました。グラウンドには、照明施設もありましたので、今も使用しているのでしょう。



8月24日、やまぎんホール（山形県県民会館）で、第66回全日本合唱コンクール山形県大会があり、本校の音楽部が出場しました。高等学校の部には、出場者が32名以下のAグループに6校、33名以上のBグループに5校が出場し、本校音楽部は17名のため、Aグループでの出場となりました。3年生4名も、夏休みの間も練習を続け、少人数とは思えない素晴らしい合唱を聞かせてくれました。結果は銀賞で、東北大会への出場はなりませんでしたが、4名の3年生は一番遅くまで部活動が続けることができました。写真は、コンクールのパンフレットです。



第66回全日本合唱コンクール山形県大会
日時：2014年8月24日（日）午前9時30分
会場：やまぎんホール（山形県県民会館）

主催/山形県合唱連盟・朝日新聞社山形総局
共催/山形県高等学校文化連盟・山形県中学校文化連盟
後援/山形県教育委員会・山形県音楽教育連盟
実行委員会/山形県音楽連盟

8月29日（金）から31日（日）まで、本校の学校祭が開催されました。毎年8月最後の金曜日から日曜日にかけて開催され、土曜と日曜が一般公開となっており、山東祭（やまとうさい）と呼んでいます。夏休みが終わってから1週間程度しかないのですが、準備もたいへんですが、綿密な計画を立て、限られた時間を有効に使

って開催を迎えることができました。最初の写真は、武道館に掲げた歓迎の幕で、開催前の土曜と日曜に作成していました。次の写真は、校舎の2階から中庭に掲げた幕で、今年のテーマ「BOOST～躍東`せよ」と書かれています。「BOOST」には「押し上げる、元気づける」などの意味があり、「BO」と「OST」に分けることができますが、「BO」を「130」と見ることで創立130周年を意識したものになりました。さらに「OST」はドイツ語で「東」を意味することから、今年にふさわしいテーマとなりました。「～躍東`せよ」は「躍動」にかけて「やくどう」と読みます。



いろいろな企画のPRに通常ポスターを貼りますが、本校では階段も利用しています。左の写真は、3年生の企画であるお化け屋敷や冷やし中華の模擬店をPRしたものです。右の写真は、多くの人に来てくださった中庭企画のPRで、この階段を上がったところに中庭があります。



毎年恒例となっているものに、3年生企画のお化け屋敷と、2年生による迷路があります。迷路は、卓球場を使用するため、準備の期間が限られています。今年も、迷路は一般公開に間に合うだろうか心配する先生もたくさんいました。最初の写

真は一般公開前日の夕方5時頃の写真で、どんな迷路になるのかも検討が付きませんでした。次の写真は、翌朝8時頃の写真で、かなりできていました。10時半の一般公開にも、ぎりぎり間に合いました。ただの迷路ではなく、殺人事件をからませて、迷路の中にあるヒントを探しながら、犯人を探し出すという凝ったものでした。2日間で、854名もの入場があったそうです。初日と2日目で犯人は異なるようにセットしていて、私も2回入ってみました。2回目で犯人を探し出すことができました。



本校では、アフガニスタンにランドセルを贈る活動「えがお大作戦」に2年前から取り組んでいることを「6月の窓」で紹介しましたが、今年度はこの取組に賛同いただいた近隣の高校と協力して進めることになりました。山東祭期間中にも、ランドセルの寄付をお願いしてきたところ、写真のように多くのランドセルをいただきました。隣の写真のようにその個数を中庭で表示して、写真では170個とありますが、閉祭式までに174個のランドセルが集まりました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。昨年1年間で集まったランドセルは168個でしたので、すでにそれを上回っています。これからもご協力をお願いしながら、10月19日に、協力いただいている高校と合同の発送式を行う予定であります。

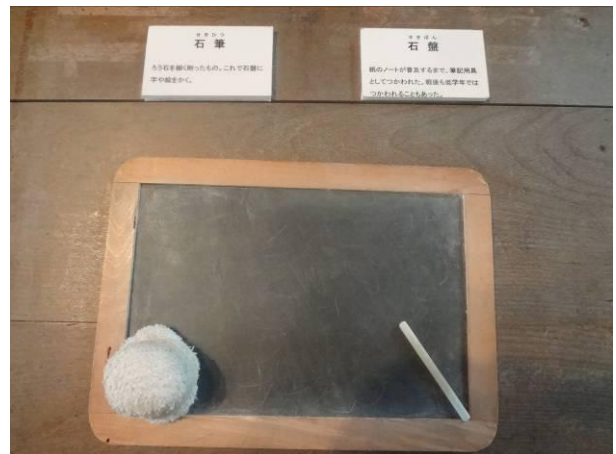
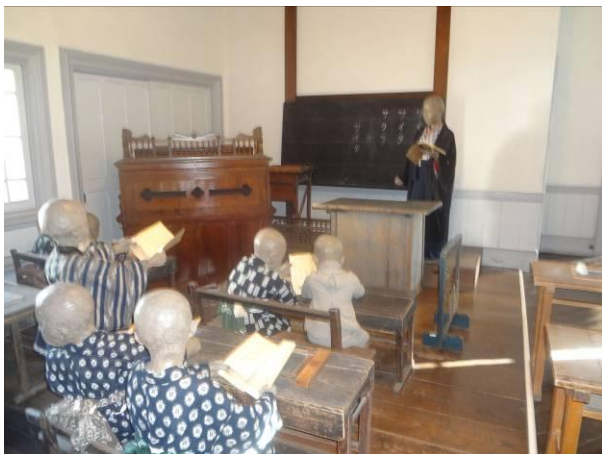


最後に、今月は教育資料館を紹介します。教育資料館は、先月紹介した洗心庵のすぐ東側、山形北高校のすぐ西にあり、昭和55（1980）年に、山形県立博物館の分館として開館しました。教育資料を専門に展示している全国でも珍しい博物館です。私も2年前博物館に勤務していた時は、時々この資料館にも来ていました。入館者は決して多いとは言えませんが、県外からの入館者が多く、館内備え付けのノートに、いろんな感想を書いてくださる人がたくさんいます。

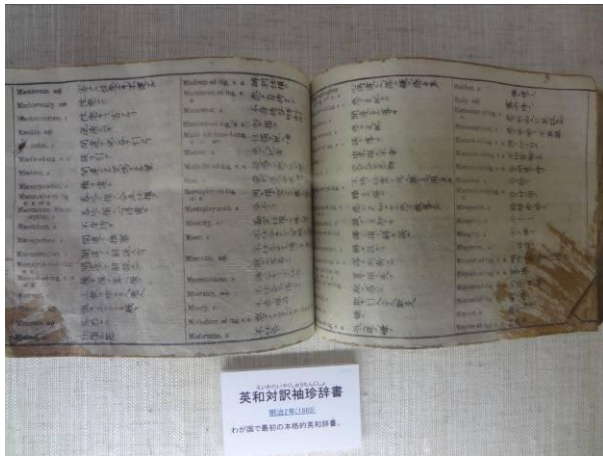
建物は、明治34（1901）年建築の「旧山形師範学校本館」で、国の重要文化財に指定されています。写真でわかると思いますが、棟の中央に塔屋がそびえています。これは明治11（1878）年に創設された山形師範学校の当時の校舎にあった時計塔の名残と言われています。明治の香りが漂うかつての教室を展示場として、江戸時代から現代にいたるまでの「教育県やまがた」の歩みを年代順に展示しています。人形や実物資料を使って、教室風景などを立体的に再現しており、一部を除けば、手で触れることもできます。次の写真は、寺子屋を再現したものです。



次の写真は、昭和初期の教室を再現したものです。隣の写真は、当時の子どもたちが使った石盤と石筆です。石盤はノートの代わりに、石筆は鉛筆の代わりに使われ、何度でも消して書けるようになっています。



最後の写真は「英和対訳袖珍（しゅうちん）辞書」で、「我が国で最初の本格的英和辞書」との説明があり、明治2（1869）年とありました。袖珍とは「袖に入るほどの小型のもの」という意味だそうです。



先ほどの備え付けのノートを見ていたら、山形北高校の卒業生が先月来館されて書いておられました。その方は、北高20期生で、40年ほど前にこの校舎で学んだとのこと。教育資料館となる前は、山形北高の校舎として使われていたのです。1階左側の教室がかつて1年5組の教室で、当時学んだ教室が今も残っているのに感激されたとのことでした。現在神奈川県在住とありましたが、今度は同級生を誘ってきたいともありました。ありがとうございました。